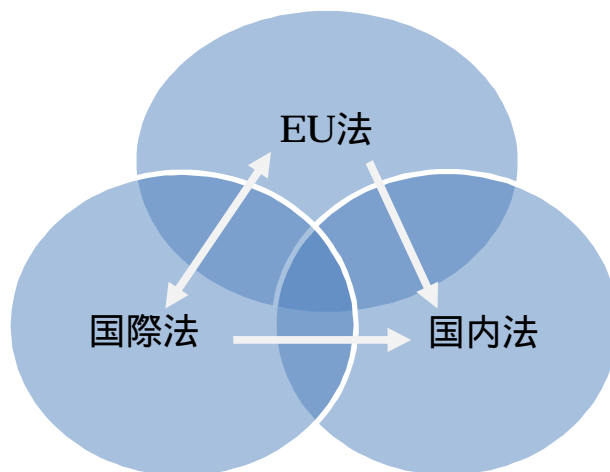


## EU の庇護権

### 1 . 庇護に関する 3 つの法体系の関係

- ( 1 ) 国内法：国内法上の庇護権・出入国管理法、庇護に関する判例
- ( 2 ) 国際法：1951 年難民の地位に関する条約、国際人権諸条約（拷問禁止条約、自由権規約）
- ( 3 ) EU 法：庇護に関する手続指令・規定・欧州司法裁判所及び欧州人権裁判所の判例  
国際法の遵守（TEU 300 条( 7 )）



### 2 . E U の庇護権の形成

( 1 ) EU の目的：庇護の負担分担を平準化すること

( 2 ) EU 共通の庇護法の制定過程

- 1 ) 人の移動の自由の保障    EU 市民の域内自由移動    非 EU 市民の入国管理（Schengen Borders Code/SIS II）    難民の入国管理へ影響大へ
- 2 ) EU 共通の庇護法制度 {
  - ・ 共通基準：EC 条約 63 条 1 項・2 項（現行の EU 機能条約 78 条 2 項）に基づく庇護基準/手続規定の制定
  - ・ 庇護の負担分担の仕組：ダブリン規則・Eurodac 規則に基づく申請受付国 1 カ国の選定    審査手続の責任分担

●EU 共通の庇護手続基準制定→ 国内適用→ 受入処遇統一    EU 単一の保護領域創設へ

### 3 . 国際法上の庇護権

・ 世界人権宣言 14 条の解釈：

- ・ 迫害されている者が他国に庇護を求める権利
- ・ 庇護を付与する国家の権利か（国家の自由裁量権 v. 個人の人権の問題）
- ・ 個人が庇護を享有する個人の権利

●難民への国際保護は 1951 年難民の地位に関する条約及び 1967 年議定書（以下、1951 年難民条約）とノン・ルフールマン原則（追放・送還禁止）が核であるが、庇護付与の規定がない（1967 年領域内庇護宣言に留まる）。

#### 4. EU の庇護権

##### (1) 欧州連合基本権憲章

- ・第18条：庇護を受ける権利 (1951年難民条約、EC条約63条規定に基づく諸規定/基準)
- ・第19条1項：集団的国外追放の禁止 (ECHR第4議定書4条)
- " 2項：国外退去、国外追放及び身柄引渡しに対する保護 (ECHR第13議定書+3条・判例)
- ノン・ルフールマン原則の適用
- 欧州人権条約3条の適用：欧州人権裁判所判例

- Soering v. U.K (no.14038/88, 07/07/1989)
- Said v. The Netherlands (no.2345/02, 5 July 2005)
- N. v. Finland (no.38885/02, 26 July 2005)

##### (2) EU 法の庇護権規定

- 国際的保護の資格・審査手続基準・申請者・受入対象者の処遇についての共通最基準の制定  
(現行、最低限度遵守する必要がある下限レベルの詳細規定)

国際的保護の資格最低下限基準( Qualification Directive :Council Directive 2004/83/EC of 29 April 2004 参照)

地位	条件	法源：国際法・欧州人権諸条約	EU 加盟国の従来 の国内法規定の 有無	ECJ/ECHR 判例
難民	1951年難民条約1条A項該当者に庇護を付与する(QD9条/10条/13条).	難民の地位規定なし 庇護付与規定なし	難民の地位：有り 庇護規定：一部 (独仏ほか少数)	なし
補完的保護	“重大な損害”(serious harm)があり帰還できない第三国国民及び無国籍者(QD2条(e), QD15条(a)/(b))を保護する.	追放・送還禁止規定： 国連拷問禁止条約3条 自由権規約6条・7条 欧州拷問禁止条約3条 欧州人権条約3条 戦争状態(1949年ジュネーブ条約・1977年議定書)	・類似の国際的保護を必要とする者の地位(少数) ・行政裁量による人道的理由上の居住権許可(多数)	ECJ： -Elgafaji v. NL (C-465/07) -Sahin v. AT (C-551/07) ECHR3条判例： -Said v. NL -N. v. FI

大量難民の流入の場合の受入れについては、別途、一時保護の共通制度として規定(Council Directive 2001/55/EC, of 20 July 2001)

#### 5. 課題

- ・3つの法体系の関係(国際難民法の欧州化か)
- ・条約難民と補完的保護の地位の棲み分けの意義
- ・補完的保護の法的根拠と欧州連合基本権憲章19条2項との関係
- ・庇護権の制限の影響～難民の人権保障となるのか

##### 【参考論文】

佐藤以久子「EUにおける難民の保護 現状と国際法上の課題」、渡邊彰悟・大橋毅・関聡介・児玉晃一編『伊藤和夫弁士在職50周年祝賀論文集 - 日本における難民訴訟の発展と現在』現代人文社、2010年